

第9回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず<企画シート作成上の注意>をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）リュウコクダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）ウエヤマゼミ
龍谷大学	経済学部	上山ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ）チームミカチャン	フリガナ）コンドウユウキ	6人
チーム美香ちゃん	近藤優気	

研究テーマ（発表タイトル）

本当に途上国に「学校」は必要なのか？

1. 研究概要（目的・狙いなど）

これまでもアフリカなどの途上国に「学校」を作る動きがあった中で、通うのが大変だったり既に潰れてしまったりという話を耳にしたことがあるが、そのような状況の国々に本当に「学校」は必要なのか、違う方法はないのか、を考えることによって教育面においてそのような国々に本当に必要なことは何なのか、本当にすべき対策は何なのかを考える。

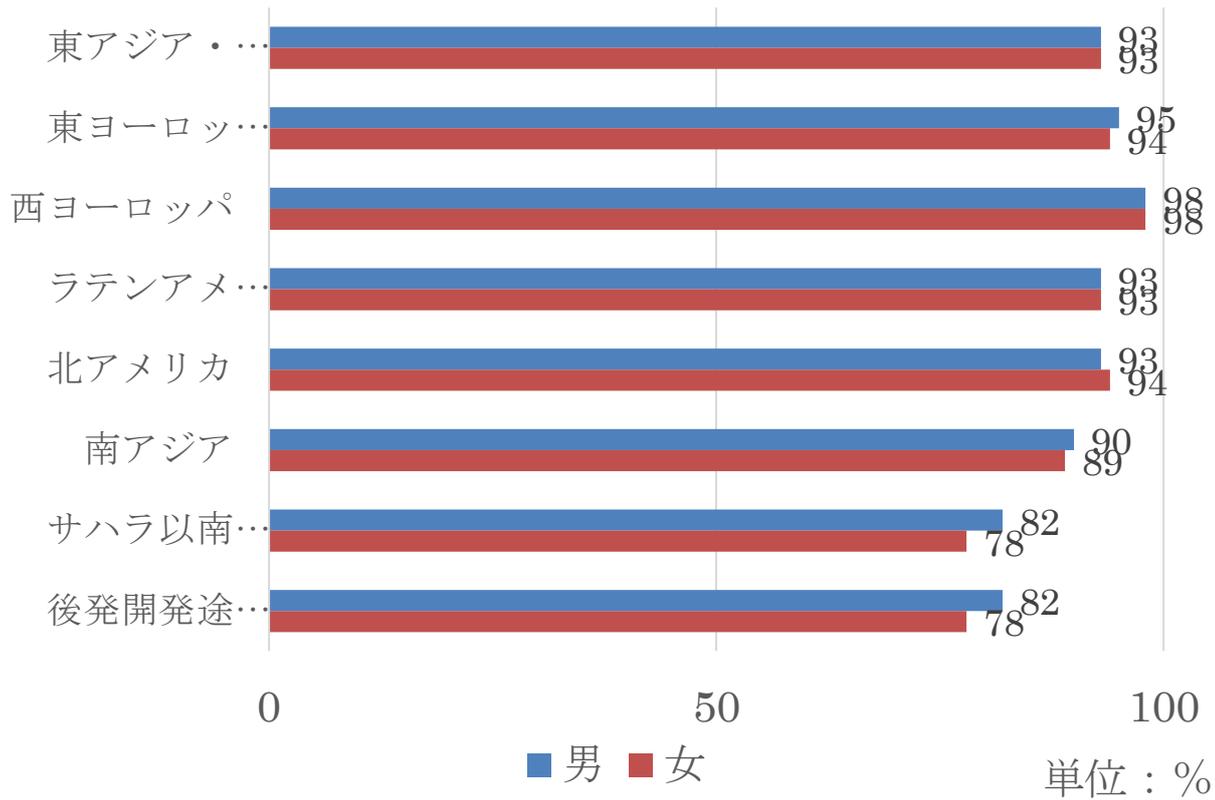
2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

途上国の現状として学校に通えない子どもは約 6000 万人、読み書きができない成人は約 7 億 8100 万人、さらに学校に通えている子どもでも約 3 分の 1 が卒業できずに中退している。また、学校にいけない理由として、学校が近くにない、先生がいない、学校に通うお金がない、弟妹の世話をしないといけないといった理由が挙げられる。なので、私たちは高額な費用を費やして「学校」を建てても通えない人が多くいると意味が無いと思うので「学校」ではなく村や集落、それぞれの地域で通いやすい範囲内で教育を受けられる場を設けることが適しているのではないかと考える。

これまで教育の場として「学校」を建てるための取り組みが多く見られたが、「学校」を何校も建てるのは難しいし、教える側の人材不足や通うためのインフラ整備から始めないといけない地域もあると思うので、町や村などの小規模で教育が受けられる環境づくりを目指すべきである。

3. 研究テーマの課題

初等教育純就学率（2011～2016）



これは初等教育純就学率で公式の初等教育就学年齢に達している子どものうち初等学校または中等学校に就学している者の数で、初等教育就学年齢にある総子ども数に占める割合で表している。これからもわかるように、アフリカ地域や後発開発途上国は他の地域と比べて低くなっていることがわかる。教育を受けるために「学校」を作っても距離やお金の問題、家庭環境の問題から教育を受けられない人もいる。教育を受けていないと読み書きや計算ができなかったり必要な知識が得られず、将来の仕事が選べなかったり社会から取り残され、低所得者となって自分の子どもを学校に行かせず働かせる。そうするとその子どももまた同じ道を辿るという悪循環に陥っている。この負の連鎖を防ぐためにもできるだけ多くの子どもが教育を受けることができる環境を整えることが課題ではないかと考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

「学校」を建てても通えない子どももいるのでより多くの子どもが教育を受けられるためには「学校」よりも村や町、集落ごとに集まれる場所を確保して、そこで小規模で教育を受けることができる環境を整えるべきだ

と思う。また、教育面において発展している国の力を借りて、おしえる側の人間を育てる。さらに、その人数を増やすことも必要になってくる。

さらに、教育より家計のために働くべきという考えが浸透しつつある中で、ただ単に場所を設け、「教育は大事だ」と言うだけではこれまでと変わらないと思うので親に向けた説明会のようなものも取り入れて教育の必要性を今まで以上に知ってもらって理解を深めてもらうことも解決策の一つではないか。

その理解のもとで「学校」をたてるためにかかる費用を教科書や筆記用具などに充てたり、その勉強場所の補正に当てたりすることで効率が良くなると思う。

さらに、新たなビジネスとしては現代の IT 社会に合わせてコンピュータを使った教育も考えられる。

教育だけではなく、「友達関係」や「集団の中で生きて行く」ことを学ぶためには小規模でも集まって教育を受けるべきだと思うが、どうしてもそれでも無理な場合はコンピュータを使った衛生授業という方法もあるのではないか。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

インターネットの情報を元に、途上国の現状や様々な政策の限界はどこにあるのかを考え、「学校」は必要なのかを考える。

また、これまで行われてきた「学校」を建てる取り組みなどから、「学校」を建てるのに必要な費用と教科書や筆記用具などの教育に必要な道具にかかる費用を出し、私たちが考えるプロジェクトに必要な費用と比較してどのような違いがあるのか、どれくらい抑えられるのかを調べる。さらに、私たちが考えるようなプロジェクトによって成功した事例を調べ、その事例を関連させて私たちのプロジェクトの根拠としていく。

6. 結果や今後の取り組み

「学校」が必要ではない理由と、「学校」ではない違った教育方法のほうが良い理由を明確にし、メリット、デメリットを考える。

また、これまでの状況を元に、その教育が今後どのようにつながっていくのかを考える。

7. 参考文献

<http://africaheritage.jp/shcool.html>

http://eedu.jp/donation/?gclid=EAiaIQobChMI_OPEqc6t3gIVyworCh2R7w9JEAAYASAAEgL72_D_BwE

<Http://unesco.or.jp/terakoya/issue/>

<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/ku57pq000006cqk3->

att/2_1.pdf#search=%27JICA+%E7%99%BA%E5%B1%95%E9%80%94%E4%B8%8A%E5%9B%BD+%E6%95%99%E8%82%B2%27

<http://livedoor.blogimg.jp/naokis1/imgs/0/e/0e7b2ebd-s.jpg>

<https://publicdomainq.net/images/201709/07s/publicdomainq-0013057fxk.jpg>

● パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例、商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】 ※「第9回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。